

《主の洗礼・あなた方は私の愛する子、私の心に適う者》

今日はイエス様がヨハネによって洗礼を受けられたことを記念する祝日です。教会の典礼歴によって明日から、私の着ている祭服の色も緑に変わります。これは主の洗礼を最後にして翌朝から年間の週間に入ることを意味しています。

なぜ主の洗礼の祝日を最後にして年間の週間に入るのでしょうか。それには理由があります。それは私達が洗礼を受けた日を思い出しながら、改めて信仰的にもう一度新しい気持ちで頑張って行きましょうという意味があります。

イエス様は洗礼を受けられました。その様にしなければならない理由もないように思えるのですが、イエス様は洗礼を授けるのではなく、洗礼を受けられました。その位“洗礼”は神秘的な秘跡です。その時、天が開いて何と言いましたか。「これは私の愛する子」、そして「私の心に適う者」という声が聞こえて、聖霊も鳩の様な姿でくださったと今日の福音は伝えていきます。

さあ、質問をします。この出来事は2000年前イエス様が洗礼を受けられた時だけに起こったことでしょうか。「これは私の愛する子、私の心に適う者」という言葉はイエス様だけに向けられた言葉だったのでしょうか。

いいえ、そうではありません。皆様が洗礼を受けられた時にも必ずこの様なことが起こりました。これは私達が信じなければならない一つの信仰です。それくらい洗礼は偉大なことです。私達が洗礼を受けた時にも天が開け、「これは私の愛する子、私の心に適う者」という天からのみ言葉があって聖霊もくださったのです。ただ私達が気付かなかっただけです。それを意識する日が今日なのです。私達の洗礼を振り返ってみる日です。

「これは私の愛する子、私の心に適う者」とはイエス様だけに話されたみ言葉ではありません。私達が洗礼を受けた日、私達に神様がおっしゃったみ言葉です。

すなわち皆様が神様に愛されている“息子”“娘”なのです。そういう意識が何よりも大事なことです。その意識がきちんと身に付いたら、自分に対して軽く考えなくなります。神様が本当に“私”を大事にしていらっしゃることを悟りながら、感謝する気持ちになります。

さあ、私達は「神様の愛される息子、娘」です。そして「神様のみ旨に適う者」になれるよう努力することが、私達の使命であり、役割ではないかと思えます。

また幼児洗礼を受けた方以外は、自ら希望して洗礼を受けられ、すすんで信仰の生活を送られています。また近い内に洗礼を受けられる方もいらっしゃいます。

さあ、皆様思い出して見て下さい。私達は洗礼を受けてから結構変わりました。出来るだけ罪を避けようとしてきました。そして愛を実践しようと努力してきました。信仰の生活を出来るだけ充実させようとしたし、教会の秘蹟の生活にもある程度親しもうとしました。「神様の心に適う者になりたい」と努力し、与えられた自分の人生を出来るだけ肯定的に見るよう努め、未来に希望をおく生き方をしました。洗礼を受けた時、その気持ちは本当に強いものでした。

さあ、今はどうでしょうか。今もその熱心な気持ちを保っているのでしょうか。少し生ぬるくなったところとか、鈍くなったところはないのでしょうか。本当に私は生き生きと洗礼の恵を感じながら、積極的に神様のみ旨に適う者になるために頑張っているのでしょうか。日曜日のミサが面倒くさく感じないのでしょうか。この神父の口から出る言葉が退屈ではないのでしょうか。もしその様な気持ちが少しでもあったら取り戻しましょう。

洗礼を受けた時、溢れていたあの気持ち、最初の気持ちを取り戻しましょう。それが主の洗礼の祝日

に、私達がもう一回決断すべきことではないかと思えます。

もう一つ申し上げたいことがあります。私達は要理の勉強の時間に「洗礼を受けると受ける以前に犯したあらゆる罪を赦される」と教えて頂きました。それは確かな私達の信仰の一つです。「全ての罪、過ちそして失敗がすべて赦される」それは大変なことだと思って洗礼を受けました。即ち、主は洗礼の恵によって私達の罪を洗って下さいました。それについて私達は神様に感謝しています。しかしもっと成熟した信仰の生活になるためには、その「罪から赦されるために」という言葉に留まってははいけません。正しい信仰の生活は「どの様にすれば罪を避けられるのか」ということだけではなく、「どの様にすれば恵を感じながら、その恵を大事にすることが出来るのか」を考える生活を意味します。

怖がって逃げてもそれは解決にはなりません。愛が基本にならなければ、神様も私達にとってあまり意味がありません。怖くて信じる神様は意味がありません。私を愛してくれたから、私自身も意乱しないうちに「私が愛してしまう」そういう神様が私達に必要です。

熟された信仰の生活というのは、神様から頂いた恵を敏感に感じられる。そしてその恵をどの様にすれば大切に出来るかを考えながら生きる生活です。これが洗礼の秘蹟が見せてくれる教えではないかと思えます。

今日、成人の日を迎えた子供達、また皆様の子供達も、時には「親から一方的に洗礼を受けさせられた」と悩んだことがあるかも知れません。しかし洗礼は大きな賜です。今はまだはっきり分からないかも知れませんが、いつか「何よりも大事な宝物をくれた」と親に必ず感謝する日が来ます。

主の洗礼の祝日を迎え、私達一人一人にとっての“洗礼”をもう一度考え直しましょう。

ありがとうございました。

《説教後》 家庭訪問について

いよいよ家庭訪問がはじまります。まず 17 日から沢野地区を回ります。家庭訪問について疑問を持っている方もいらっしゃると思いますので少し説明します。

この家庭訪問は皆様から質問されるものではありません。私から質問します。その質問は簡単に答えられるもの、また時には少し答えにくいものもあります。言いたくないことを質問されるかも知れません。しかし私は一生懸命聞きます。ですから隠そうとせず、ありのままを答えて下さい。

一枚の紙にご家族のお名前と受洗年月日、洗礼名、生年月日などを書いて、待っていて下さい。そして出来れば家族全員が写った写真があればありがたいです。私もカメラを持って訪問します。必要があれば撮ります。(悪用はしません！)

何よりも「何を望んでいて、何で困っていて、何で苦しんでいるか」を知りたい。そういうことをおっしゃって下さい。もしかしたら解決されるかも知れません。おもてなしは考えないで下さい。掃除などしようとしなくて“ありのまま”を見せて下さい。「私はこの様に生きています」という姿を見せて下さい。

家庭訪問 施設・病院等の訪問 家庭訪問出来なかった人の面接 外国の方々の面接(何故日本まで来られて、日本に住もうとしたか等)という順で回ります。

少し時間がかかるとは思いますが、皆様のご協力をお願いします。